

豊富町

山本 浩司

1.概要と歴史

1.1.豊富町について

豊富町は、北海道最北の宗谷支庁に位置し、利尻礼文サロベツ国立公園の一部である23000ヘクタールにもおよぶサロベツ湿原を有する。サロベツ湿原は2005年11月にラムサール条約に登録されるほどの美しさをもっている。また、豊富町は日本有数の広さを誇る牧草地を利用した大規模な酪農をおこなっており、このサロベツ原野と牧場の風景は、北海道でも1、2を争う雄大さである。他にも、日本最北の温泉街で効能豊かな泉質を誇る「豊富温泉」がある。

1.2.地名の由来

初めは川の名称をとって、エベコロベツ又は旧村名沙流と二つの地名をよんでいたが、別に適当な名称にしてはどうかという照会が留萌支庁よりあり、当時の住民会で協議をした結果、アイヌ語で「エベコロベツ」とは意識をすれば「なんでも豊富にある川（場所）」という意味に当たるので、『豊富』と称するようになった。

1.3.歴史

豊富町の開基は、1869年に開拓史が置かれ、水戸藩の支配に属したのがはじまりである。そして短期のうちに、宗谷支庁、留萌支庁、札幌本庁と管轄を移った後、天塩郡内が各村に区画された1878年に沙流村の名が生まれた。その後、1879年から幾度となく所属替が行われ、1914年に増毛支庁から留萌支庁に移された後、1948年の行政区間の変更によって現在の宗谷支庁管内に所属となった。またその間、1919年に幌延・沙流両村の合併により幌延村に、1940年に旧沙流村を以て幌延村より分村し、豊富村と称した。そして、1959年の町政の施行にともない「豊富町」となった。

1926年の石油試掘中に温泉が噴出したのをきっかけに、1933年には豊富温泉株式会社が創設され、その後着々と温泉事業を展開し、1965年には豊富温泉スキー場及び遊園地を設置、1992年には国民保養温泉地に指定された。

1.4.地理・地勢

豊富町は、北緯45度01分45秒～45度16分20秒、東経141度34分55秒～東経142度01分20秒に位置し、北は稚内市、南は幌延町、東は猿払村に堺し、西は日本海に面し

ている。総面積は 520.67 km²、周囲 135.2 km、南北 17.8 km、東西 28.5 kmで、各市町村との境界は、起伏続きの山脈をもって連なっているが山系は比較的低く、僅かに東方に「ポロシリ山」426m、「恵丹臼山」313m があるのみで、その他の山々はいずれも 260m 以下である。中央を流れるサロベツ川は、北見山脈に源を発するメナシベツ川、下エベコロベツ川と合流し延々蛇行し海岸地帯を迂回して天塩川に注いでいる。また、メナシベツ川、下エベコロベツ川の上流一帯は森林地帯であり、サロベツ川流域は一大平原を形成している。

図 1 宗谷管内における豊富町の位置



出典：北海道新聞、北海道市町村情報

図 2 北海道における豊富町の位置



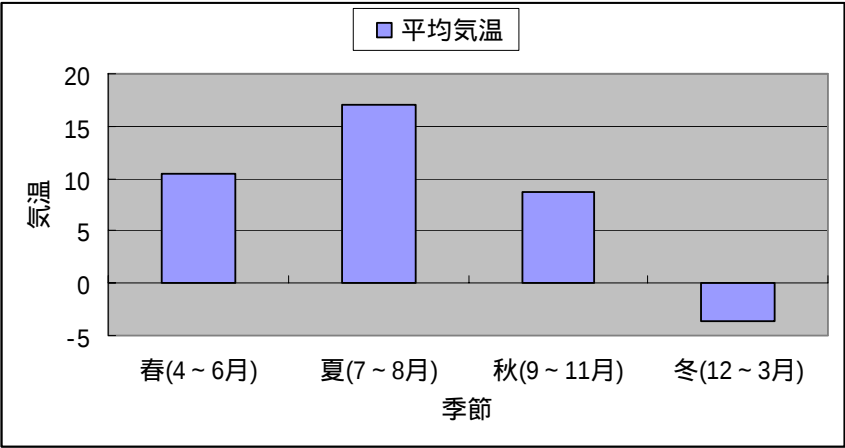
出典：豊富町 HP

1.5.気候

豊富町の気候は、夏は涼しく、飛び抜けて暑くなる日も少なければ平均気温も 17.1 度にしかならないが、冬は北西の風が強く乾燥寒冷であり、-20 度を下回る日も多く平均気温は -3.55 度にまで下がる。年間を通して平均 5 ～ 6 度と全体的に気温の低い地域である。ま

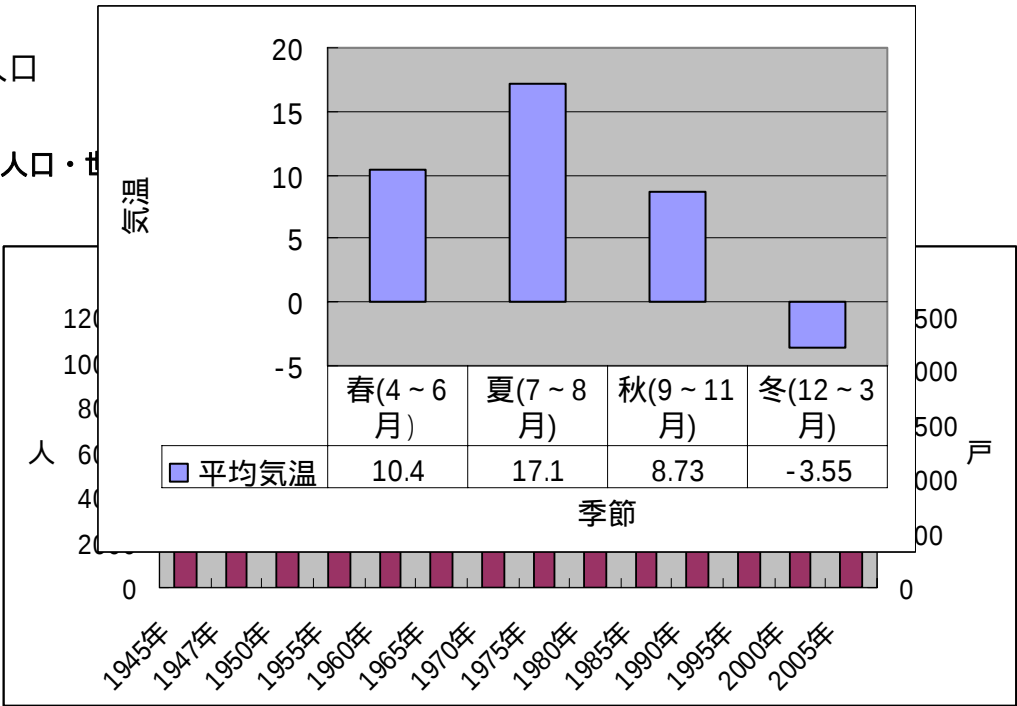
た、降雪は11月中旬から4月中旬まであり、最深積雪も82cmと深い。

図3 豊富町の四季別平均気温



2.人口

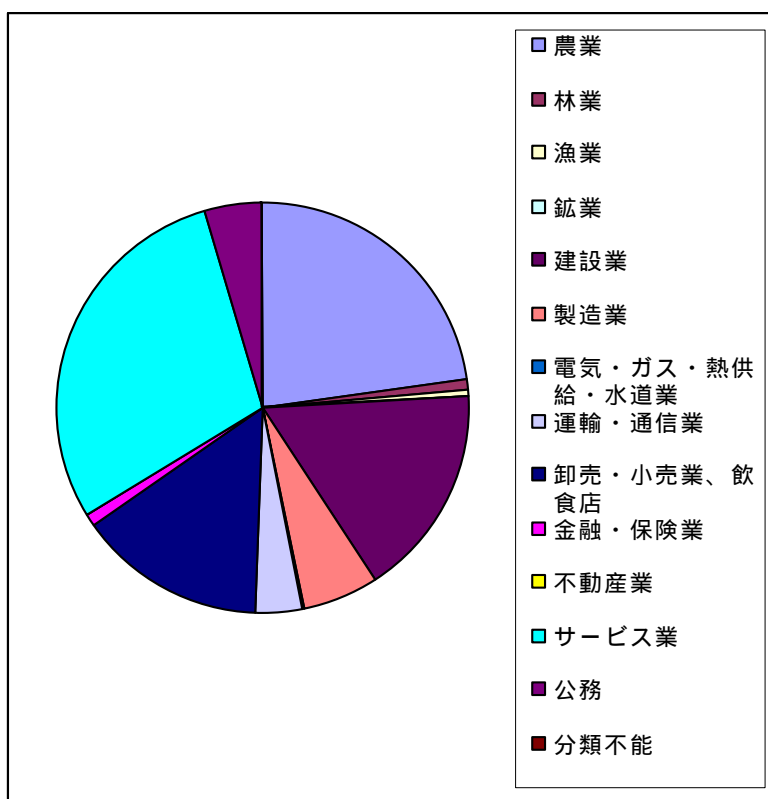
2.1.人口・世帯



豊富町の人口は、2004年12月現在4908人で、男性2413人、女性2495人となっており、世帯数は2056戸となっている。豊富町では高度経済成長以降、若者の都市への流出や少子・高齢化などにより、老年人口こそ増加しているが、全体の人口は年々減少傾向にある。また、若者の都市への流出や少子・高齢化が進んでいることは、人口は減少しているが世帯数は大きく推移していないという現象から、顕著に見てとることができる。これらのことから、豊富町は典型的な「農村」の人口・世帯数の推移をしているといえる。

2.2.産業別人口

図 5 豊富町の産業別人口



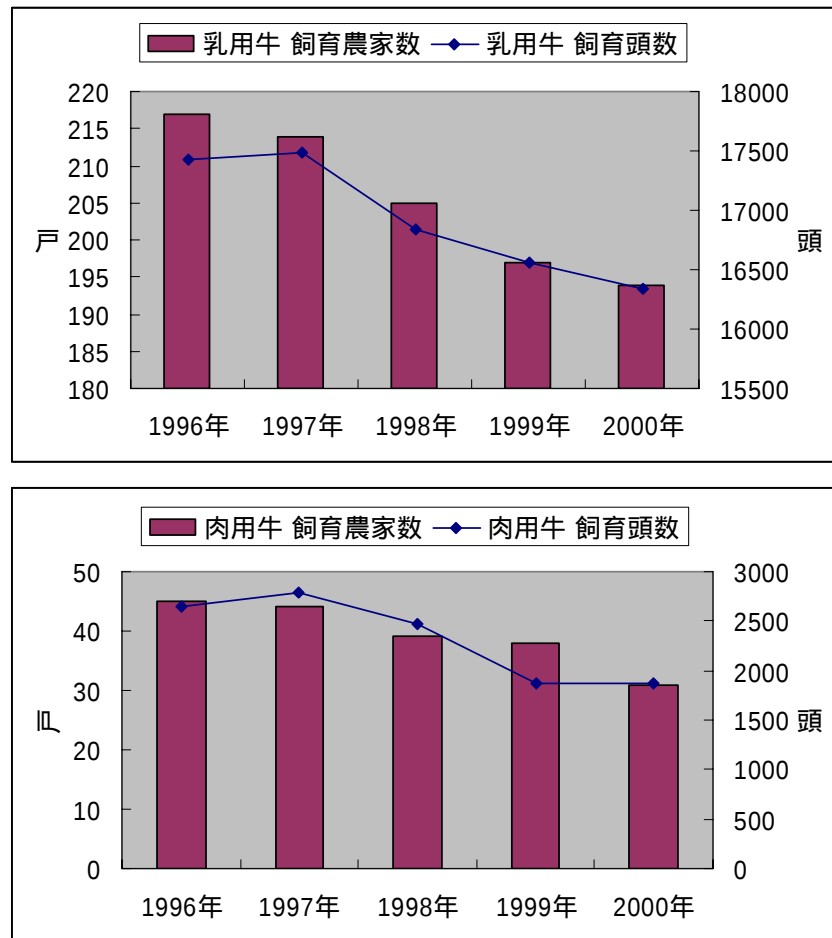
豊富町の産業別人口の特徴としては、いくつかの業種に偏った割合をしめしていることがわかる。農業の割合が多いことについては、豊富町が農業の町であることからある程度は想像できるが、建設業やサービス業が多いことについては、これは豊富町内で仕事を行っているというのに加え、豊富町のすぐ北に位置する稚内市で仕事を行っているというケースもあるからである。

3.産業

3.1.農業

豊富町の産業のなかで最も特徴的なのが農業である。その農業とは、13000 ヘクタールの牧草地を基盤とした放牧型酪農であり、酪農は豊富町の基幹産業となっている。乳牛頭数1万6千頭、年間出荷乳量は7万2千トンと全道でも上位にランクされるほどである。また広大な粗飼料基盤を有効に活用するため、黒毛和種（肉用牛）も飼育されている。町内には、1500 ヘクタール（東京ドーム約320個分）という、日本有数の広さを誇る「豊富町大規模草地育成牧場」があり、町内外の酪農家から預託された1500頭の乳用育成牛が広大な牧草地に放牧されている。

図 6 豊富町の家畜飼育農家数及び頭数



3.2.観光

豊富町にとって観光は農業につぐ産業となっている。豊富町の観光スポットといえば、主に「サロベツ湿原」、「豊富温泉」、「兜沼公園」、「大規模草地牧場」の4ヶ所がある。

「サロベツ湿原」：北海道ならではの広大なスケールで、水平線まで続く日本一の高層湿原である。開花期間が2日間しかない湿原の顔であるエゾカンゾウや、サロベツの緯度が高いからこそ見られる高山植物ワタスゲなど、サロベツ湿原ならではの美しい自然が広がっている。

「豊富温泉」：大正期に拓かれた北海道でも歴史のある名湯のひとつである。肌にやさしい泉質は湯治湯としても有名で、毎年多くの湯治客が全国から訪れる。その効果は、国民保養温泉地に指定されていることから折紙付きである。

「兜沼公園」：水鳥の飛来地として知られる自然味あふれる兜沼のほとりの自然公園である。オートキャンプ場の設備も充実しており、ゆったりとした時間を過ごすことができる。

「大規模草地牧場」：総面積 1500 ヘクタールの広さを誇るこの牧場は、観光スポットとしても有名である。見渡す限り牧場が続くなだらかな丘陵地帯に、のんびりと草を食む牛たち、北海道らしい牧歌的風景がひろがっている。

参照 HP

宗谷支庁 HP：<http://www.souya.pref.hokkaido.jp/main/>

豊富町 HP：<http://www.town.toyotomi.hokkaido.jp/>

Wikipedia：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B1%8A%E5%AF%8C%E7%94%BA>

北海道新聞・北海道市町村情報：

http://motto.hokkaido-np.co.jp/shicyou/menu_map/souya.html